

第 29 回ニセコ町環境審議会 議事概要

■ 概要

- ・日時：2019 年 1 月 15 日午後 13:00-15:00
- ・場所：町民センター 研修室 1
- ・参加者
審議委員：阿部氏、柴田氏、牧野氏、猪狩氏、澤田氏
事務局：山本氏、宮坂氏
クラブヴォーバン説明者：村上、陶山
オブザーバー：早田、田中信、仲埜、牧原、田中健

■ 議事

1. 報告事項
(1) 平成 30 年 11 月～12 月に行った環境に関する主な取組（資料 1）
2. 審議事項
(1) 第二次環境モデル都市アクションプランについて（資料 2）
3. その他
4. 閉会

■ 議事メモ（敬称略）

<会長不在により、阿部副会長より開会の挨拶>

1. 報告事項
(1) 平成 30 年 9 月—10 月に行った環境に関する主な取組（資料 1）
<事務局より、資料 1 を説明>
<事務局より、資料 1 最終項目の地熱資源利活用についての補足>
・復旧計画が受理されて、進んでいるとのこと

（報告事項を通じての質疑はなし）

2. 審議事項
(1) 第二次環境モデル都市アクションプランについて（資料 2）

<クラブヴォーバン（以下、クラブ）より資料 2 を説明>

- ・ニセコ町と議論をしていて、すでにいくつか修正になっている点がある。
- ・計画書の「はじめに」というのは、編集後記という形にする。
- ・他県では市町村別の GDP が算出されていることが多いが、北海道は算出していないので、ニセコ町自体の GDP が現状ではわからない。また、ニセコ町の GDP を町独自に統計情報と係数を入力し、算出するのは労力が多大で、難易度も高く難しい。以上のことから、代替案として KPI は、ニセコ町がすでに入手している数字である「ニセコ町の課税額（法人、個人、固定資産税の和）」、および「納税者一人当たり課税対象所得」と

して、ニセコ町の課税額の増加と、温室効果ガス排出量抑制の両立という指標を考えている。

<以下、質疑応答>

- ・委員：KPI とは、ニセコ町に出ていくお金と入ってくるお金のことか。
- ・クラブ：KPI とは重要達成度指標という意味で、数値の設定は自由であり、今回で行くと、CO2 排出削減目標値が考えられるが、それだけでは不十分と考え、環境に関する指標と合わせて、経済の成長といったものも、入れたほうが良いと考えている。
- ・委員：ニセコ町は建物が増えているから、自然な状態でも増えていくのか。
- ・クラブ：そのとおり。延べ床面積、宿泊施設数などが増えているので、経済が成長していくので、CO2 の排出は増えていくのが一般的な考え。ただ、経済は伸びていくが、なんとかして CO2 の排出は横ばい、もしくは減らすということを計画で達成したい。
- ・委員：CO2 は減り、経済が伸びたとして、第三の視点として、ニセコ町の住んでいる住民の住心地と言った軸も重要ではないか。そういった指標を入れられないか。
- ・クラブ：定量的で、定性的、なおかつ、定期的に計測ができる指標として何が考えられるか、逆にアイデアはありますか。
-
- ・委員：一つはアンケート調査が考えられる。
- ・クラブ：その場合だと、その時々の人々の気持ちや感情などが入り、結果として、アンケート結果には、他の要素が反映されやすい。特に満足度でやっていくと、それが直接的ではない要因によることが考えられるので、アンケート調査では、計り知れないことが考えられる。また、満足度は、結果として、経済の成長に紐付けられるものと考えられるというのが多い。イギリスなどでも、経済性で、住民の満足度も測っていくという考え方が主流である。
- ・委員：経済の成長がすべて充実さを図れるとは思えない。
- ・クラブ：確かにその点はおっしゃるとおりだが、現時点で役場と協議した結果、使える指標が見当たらなかった。新たに調査するなどしても、毎年数千万円の費用も発生することから、別に指標を設定することは、見送った方が良いのでは、という結論に至った。
- ・クラブ：CO2 は減って、環境に良くなったが、経済は衰退した、だと、当たり前のことであって、今回は、そうではないことを目指しているということを前提として、お伝えしたい。
- ・委員：アンケート調査がベストではないが、例えばワークショップを入れるなどして、計画のフォローアップのような取組は、入れられないかと思う。

- ・クラブ：例えば、定期的な意見交換会を行う、などは有りうると考える。
- ・事務局：総合計画は4年に1回アンケート調査を行っている。これとリンクというわけにはいかないが、総合的に話を聞いている中で、定期的に調査はしているので、数値としては載せるかどうかは別だが、環境に関する指標の参考のものとして、数値は取ることにはできる。
- ・クラブ：アンケート調査が、今回のアクションプランの影響についてのアンケートということで、具体的に聞けるのであればまだ良いが、それをやろうとすると費用はかかってしまう。フォローアップは毎年していくのか。また、そのときに町民向けに何か会を企画することは可能か。
- ・事務局：フォローアップは毎年する予定。これまでは環境審議会のみであるが、町民向けに開催するのは可能。
- ・委員：町民にとって、それぞれ自分ごととして思ってもらうことが重要と考える。
- ・クラブ：最終的な計画策定の段階で、今回の意見を反映していきたいと思う。
- ・クラブ：また、自分ごとで考えるという取組の一つ挑戦として、今日の夜の説明会では、グラフィックレコーディングを用いたワークショップをしようと思っている。こちらは、はじめての試みではあるが、少しでも自分ごとに置き換えて考えてもらえるのではないかと、また、P23には今日の成果物としてグラフィックも追加しようと思っている。
- ・クラブ：P27からは個票を見ていただくのが良いかと思うので、別資料を中心に説明をしていきたい。

<以下、資料の様式4の個票を元に、クラブヴォーバンが説明>

- ・委員：フォローアップDとかCとかはどういう意味か。
- ・事務局：内閣府の指定のあるものに紐づけるための項目になる。様式の数値なども同様。取組の重要度などではなく、レーダーチャートで評価する際の種別を表す。
- ・委員：先程の予算や資金スキームに関してだが、あまり外部からの補助金などに頼らずに計画をしているという意味か。
- ・クラブ：例えば、新庁舎の建て替えなどは、期限が決まっていて、うまくタイミングが合うなら活用をする話はある。ただ、何か施策をする上で、助成金の獲得に動いて回らないと進まないということは避けたいという考えがある。また、エネルギーの新会社は、そもそもどういう運営体制になるかは決まっていないが、熱供給管などの整備である程度のハードの投資は必要になってくる。その上で、活用できるものはしたいとは考

えているが、通常の地方の大型な取組のように、助成金ありきで箱モノを計画したものではないことを重ねてお伝えしたい。

- ・委員：新税で税金の収入の見込みが 1.2 億円あるが、使いみちはどういうことか。
- ・クラブ：大前提、理想の状態は、税金が入ってくることがない状態を目指す（納税分は、宿泊施設が自ら省エネに投資をして、全額免税になる）。その上で、もし税収があるなら、導入にあたっての補助金に使うことなども考えられる。また協定は、町議会の判断にはなるが、ある程度町内の宿泊施設において、十分な省エネ対策が進んだときには、協定の使命は終わる、廃止するということでも良いかと考えている。税率などの数値に関しては、ある程度、決め打ちで入れているものでもあるので、実際に議論を進めてゆく中で変わるだろう。
- ・クラブ：もしくは、この財源で、世界的なキャンペーンを行い、持続可能な環境リゾート・ニセコというプロモーションに使ってほしい、という声が逆に宿泊施設運営者側から出てくるかもしれない。しかし、現段階では予測がそこまではできない。
- ・クラブ：いずれにしても、今のままでは、建物が老朽化したような状態でも、ニセコのブランドで十分に宿泊客が利用するので、宿泊施設が、積極的に建物や設備に省エネ対策を進めることが考えにくい。だからこそ、インセンティブや税を導入することでその推進をしたいという背景がある。
- ・委員：国際情勢によっても宿泊施設の稼働率は変わってくるが、事業継承などでも苦戦しているという話は聞いている。いずれにしても、町民センターや綺羅の湯のように、手で見て触れるとか、冷蔵庫なども 20 年前のものと、今のものとは、どのくらい差が出るか、といったようなものをすぐに分かるような取組は必要なのかもしれない。
- ・クラブ：特に昔の製品は機能が単純なので、壊れにくいというのもあって買い替えが進んでいない。
- ・委員：電気自動車は逆に CO2 の排出が多いという話を聞いたことが有るがどうなのか。
- ・クラブ：確かに、現在の北海道電力の電力価格や発電の内訳などを踏まえても、プリウスに乗るよりも効率が悪い可能性が高い。その話は、元の電気がどうかによって異なるという話。アクションプランでは、事業者向けの EV 入れ替えの際には、その電源は低炭素の電力を供給している電力事業者から電力を購入するという建付けになっている。さらに、将来的に、できるなら、太陽光の設置がより普及したり、低圧で充電される仕組みなどが当たり前になってくると、より効果を発揮するので、10 年後などというオーダーではより効果が高くなる。
- ・委員：ヨーロッパではエネルギーエージェンシーといった取組でアドバイスするなどの支援があるが、今回の取組はエネルギーエージェンシーという視点はないのか。
- ・クラブ：事業者への対策、一部の上下水道での循環ポンプの交換などでは、地域エネルギー会社が行えればとは考えている。確かにエネルギーの専門家を置いて行うのが効率

が良いが、ニセコ町の人口規模でその人、専門家を抱えるということが出来るのかと言われれば、難しい面もあるだろう。

- ・クラブ：エネルギーエージェンシーという点は、検討はしたが、専門家を単独でというのは無理があるように考えた。地域エネ会社や住民による市民エネルギー会社の立ち上げを念頭に置いて、それに関わる人のレベルアップで、そうした機能を賄う方が良いと思っている。
- ・クラブ：同時に、人材育成の観点で、今ある地元の事業者や住民が勉強をしてやれることを増やしていく方が、現実的だと考えている。
- ・委員：林業に関する情報提供だが、専門家は各自治体には不在なので、林野庁の予算の地域林政アドバイザー制度の活用も検討してもらうのが良いかと思う。ただし、誰を呼ぶかというのも重要になる。
- ・クラブ：現状は、まずはステークホルダーで誰を呼ぶかといったことを議論するところから始めたほうが良い。単にバイオマスをやりたくて木をドンドンと切りたいという人もいるので注意が必要。
- ・委員：町は、SDGs 未来都市にも選ばれている。町としては、SDGs の 17 項目とのヒモ付などがあった方が良いのではないかな。
- ・クラブ：良いアイデア、ありがとうございます。計画提出のときには反映をしたいと考える。

<事務局より来年度の環境審議会についての説明>

以上